

特許庁

特許公報

特許出願公告
昭38-8117

16 B 93
(16 C 93)
(30 F 971)
(30 F 91)
(30 F 922)
(16 E 3)

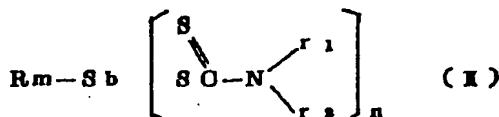
公告 昭38.6.5 出願 昭34.7.23 特願 昭34-23555
発明者 長沢正雄 清水市入江2565
同 前田泰三 清水市渋川100
出願人 イハラ農業株式会社 同所

(全3頁)

ジオカルバミルスチビン系化合物の製造法

発明の詳細なる説明

本発明は一般式(I) R_m-Sb-X_n (式中Xはハロゲン、Rはアルキル、アルキル置換ジオカルバミル、アリル、アリルオキシの基である。但し、アリル核の4位にクロール、ニトロ基の置換基を有してもよい。又エチレンジスルフアイト基と連続構造を取つてもよい。 m, n は1, 2の整数であり $m+n=3$ である)で表わされるハロゲン化スチビン誘導体とジオカルバミン酸金属塩とを反応させて一般式(II)



(式中 r_1, r_2 は水素又はアルキル基、但し r_1, r_2 がともに水素である場合を除く。Rは前述の(I)に同様、nは1, 2なる整数で $m+n=3$ である)で表わされるジオカルバミルスチビン系誘導体の製造法に関するものである。

標記化合物は殺虫、殺菌作用その他の興味ある生物効果を示すものである。

本発明に用いられる一般式(I)のハロゲン化スチビン誘導体を例示すると

1 メチルジクロルスチビン OH_3SbO_1

b.p. 115~120°C/60mm

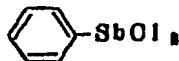
2 ジメチルクロルスチビン $(OH_2)_2SbO_1$

b.p. 155~160°C/750mm

3 ジエチルヨードスチビン $(O_2H_2)SbI$

m.p. 81°C

4 フェニールジクロルスチビン



m.p. 62°C

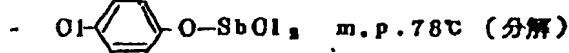
5 4-ニトロフェニルジクロルスチビン $NO_2\text{-C}_6\text{H}_4-\text{SbO}_1$

m.p. 73°C

6 ピス-(4-クロルエノキシ)クロルスチビン

$(O\text{-Cl-C}_6\text{H}_4\text{-O})_2Sb-O_1$ m.p. 82°C (分解)

7 4-クロルエノキシジクロルスチビン



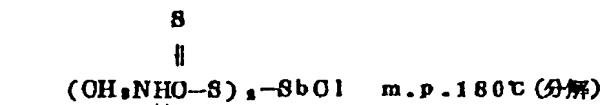
8 ピス-(4-ニトロフェノキシ)クロルスチビン



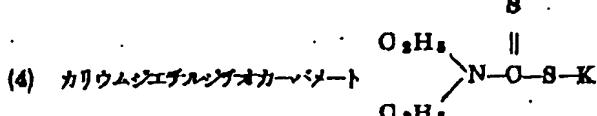
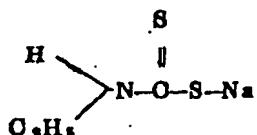
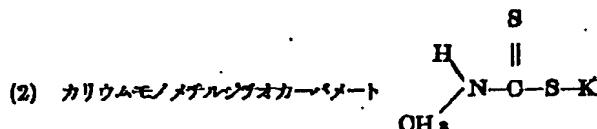
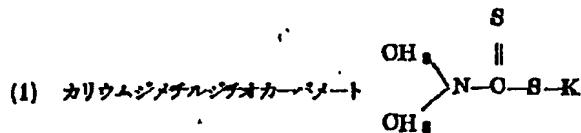
9 クロルスチビンエチレンジスルフアイト



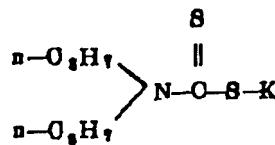
10 ピス(メチルジオカルバミル)クロルスチビン



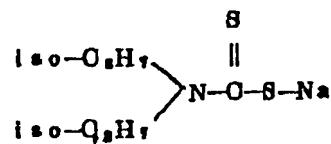
又、ジオカルバミン酸金属塩として既知の化合物を例示すれば



(5) ジリウムジオカルバメート



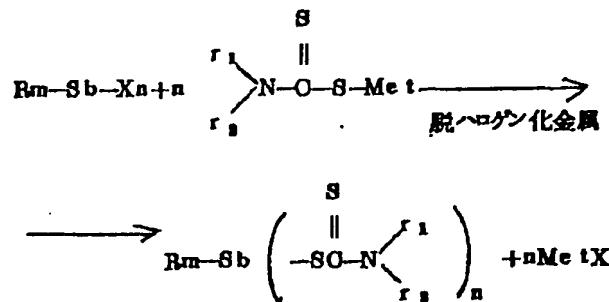
(6) ソジウムジオカルバメート



上記の原料を用いてジオカルバミルスチビン系化合物を合成するには溶媒としてベンゼン、エーテル、アルコール、クロロホルムを用い、反応温度0～100℃の間で反応させる。

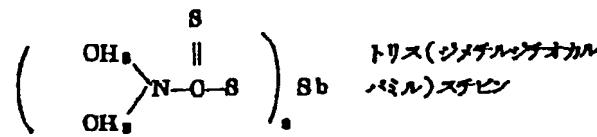
反応の難易は溶剤の種類、反応温度、方法等によつて影響されるものであり適当なる組合せが必要であることはいうまでもない。

一般的には下記の反応式により合成されるものである。



次に本発明中の化合物の実際の合成例若干を示すが、これは何れも本発明の説明に資するために挙げられたものであり、その内容を制限限定するものではない。

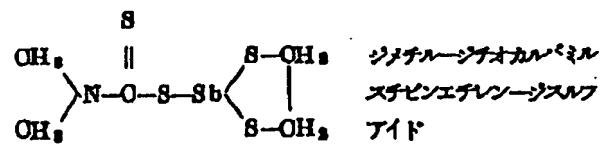
実施例 1



ビス(ジメチルジオカルバミル)クロルスチビン16.3gをアセトン500ccに懸濁させた液にソジウムジメチルジオカルバメート6.4gをアセトン500ccに懸濁した液を攪拌しながら滴下していく。滴下後10時間還流しながら攪拌する。

析出物を濾取し、よく水洗して食塩を除き乾燥して標記化合物17.2gを得る。本品は淡黄色ブリズム状の結晶で、融点224～6℃で分解し二硫化炭素に可溶で、水には不溶である。

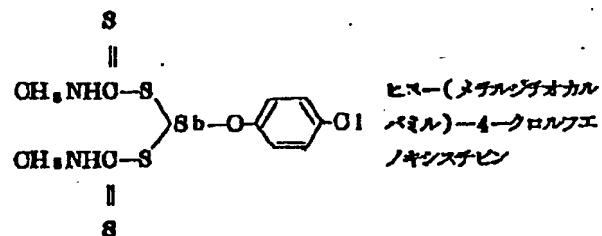
実施例 2



クロルスチビンエチレンジスルフアイド8.3gをベンゼン200ccに加え、加温溶解せしめ攪拌しながらソジウムジメチルジオカルバメート4.8gのベンゼン50ccの懸濁液を滴下する。

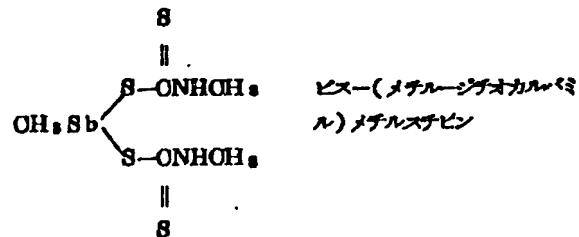
滴下後ベンゼンを還流しながら攪拌を6時間行う。熱時生成した食塩を濾別し、ベンゼン濃縮、析出する結晶を取りベンゼンより再結して標記化合物9.2gを得る。本品は淡黄色ブリズム状の結晶で融点151～154℃(分解)を示し、ベンゼン、クロロホルムに難溶又は可溶、他の溶媒及び水には難溶である。

実施例 3



4-クロルエノキシジクロルスチビン16gをベンゼン100ccに懸濁せる液にソジウムメチルジオカルバメート12.9gをベンゼンに懸濁せる液を滴下する。滴下後10時間還流しながら攪拌する。析出物を濾取し水洗乾燥して目的物18.4gを得る。本品は淡褐色の無定形粉末で融点205℃で分解する。アセトン、エタノールに極めて難溶、ベンゼン、水には不溶である。

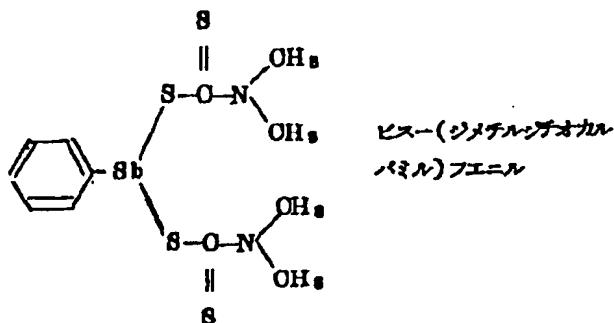
実施例 4



メチルズクロロスチビン10.4gをアセトン100ccに溶解し氷冷する。ソジウムメチルジオカルバメート12.7gをアセトン100ccに懸濁せる溶液を0℃以下で滴下を行い、滴下後10時間攪拌を続ける。析出せる

結晶を捕取水洗後乾燥して目的物 1.2.3 g を得る。
融点 82~3 °C 微黄色結晶である。

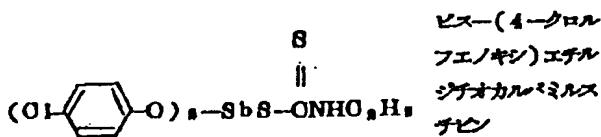
実施例 5



フェニルジクロルスチビン 1.3.9 g をアセトンに加温溶解攪拌しながらソジウムジメチルジオカーバメート 1.4.3 g のアセトン懸濁液を滴下していく、滴下後還流させながら 6 時間攪拌を続ける。

反応終了後析出せる結晶を捕取、水洗乾燥して目的物 1.9.8 g を得る。融点 160~162 °C 橙色の結晶である。

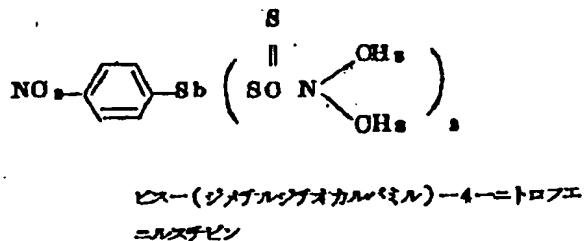
実施例 6



ビス(4-クロルフェノキシ)クロルスチビン 2.1.1 g をベンゼン 100°C に懸濁せる液にソジウムエチルジオカーバメート 7.2 g をベンゼンに懸濁せる液を滴下する。滴下後 10 時間還流しながら攪拌をする。析出物を捕り水洗乾燥して目的物 2.0 g を得る。

融点 183~4 °C 淡黄色の結晶で一般有機溶剤に難溶・又は不溶である。

実施例 7

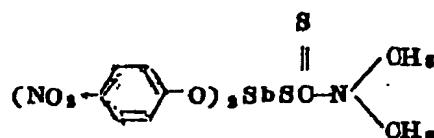


4-ニトロフェニルジクロルスチビン 3.1.4 g をクロ

ロホルム 300°C に溶解した溶液にソジウムジメチルジオカーバメート 2.8.6 g を徐々に加えて反応させる。加入後加熱還流させながら 3 時間攪拌を続ける。反応終了後剛正したソジウムクロライドを捕り、濾液を濃縮して目的物 4.1 g を得る。

アセトンから再結すると融点 183~185 °C 橙色の結晶を得る。

実施例 8



ビス-(4-ニトロフェノキシ)-ジメチルシオカルバミルスチビン

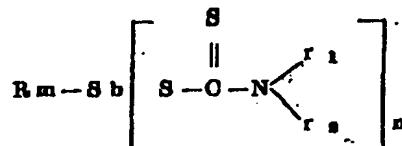
ビス(4-ニトロフェノキシ)クロルスチビン 2.1.6 g をエチルエーテル 300°C に溶解した溶液にソジウムジメチルジオカーバメート 7.2 g を加入して加熱攪拌を 4 時間続ける。反応終了後、剛正したソジウムクロライドを捕り、濾液を濃縮して析出する結晶を水洗後乾燥すると目的物 1.8 g を得る。

融点 294~6 °C、白色光沢ある結晶で一般有機溶剤に可溶である。

特許請求の範囲

一般式 $Rm-Sb-Xn$ (式中 X はハロゲン、R はアルキル、アルキル置換ジオカルバミル、アリル、アリルオキシの基である。但し、アリル核の 4 位にクロール、ニトロ基の置換基を有してもかまわない。又、エチレンジスルフアイト基と環状構造を取つてもよい。m, n は 1, 2 の整数であり、 $m+n=3$ である) で表わされるハロゲン化スチビン誘導体とジオカルバミン酸金属塩とを反応させて

一般式



(式中、 R_1 , R_2 は水素又はアルキル基、但し R_1 , R_2 がともに水素であることを除く。R は前述の意味を有する。m, n は 1, 2 なる整数で $m+n=3$ である) で表わされる新規ジオカルバミルスチビン誘導体の製造法。